

森林ルネサンス

～ 森といっしょに暮らしたい！ ～

経済成長が唯一無二の価値である時代には、森林は物質としてしか捉えられず、その産物は工業製品と同一視され、人間の生活のために森林環境の多くが壊されました。さらに、未曾有の大災害・東日本大震災という自然の猛威の前に、科学技術ですべて解決するという神話が崩れ、私たちは多くの大切なものを失いました。

環境問題、地球限界、生物多様性など既存の経済システムでは解決できない課題が山積する現代社会は、経済以外の視点での取り組みが求められています。自然を単なるモノと捉えず、精神面も含め人間が自然の一部であることを再認識し、多くの方が様々な形で、森林を守る努力を始めています。さらに、絆という言葉に象徴されるように、人間同士のつながり、相互扶助の精神が震災復興への原動力のひとつとなっています。

かつて中世ヨーロッパの封建社会の混乱の中で生まれ、人間主義の精神と古典文化の復興を掲げながら、ペストなどの猛威を乗り越え、新たな価値を創造し、近代社会をかたちづかったルネサンス。21世紀の今、国土の2/3を占める世界有数の森林大国・日本で、森を身近に感じながら暮らすことが評価され、森林の価値の見直しにより新たな価値を創造する＝森林ルネサンスが始まっています。

今回の研究会は、作家の浜田久美子氏を迎え、「森林や木と自分たちの暮らしが繋がっている実感が、人にとっては安定を、森にとっては安泰をもたらす」という視点から、基調講演をいただきます。また、人口1600人の山村・岡山県西栗倉村で、森林資源を単に売るのでなく、有機的に関連させ、総合プロデュース機能を持たせる商社「森の学校」を運営する牧大介さんに、新しい経済システムの可能性を語っていただきます。



さらに、「諸塚どんぐり材プロジェクト」などの国産材家具づくりの先駆者である(株)ワイスワイスの佐藤岳利社長の報告と、「森の音」を身近に感じる新しいスピーカーを開発する(株)JVCケンウッド社の「AQUA SCAPÉ」プロジェクトのプロモーションも同時に開催します。

ヒューマンな活動による小さな流通こそ、この閉塞感の強い過渡期の経済を突破し、暮らしを豊かにする力を持つ。人間力が生きる森林ルネサンスが始まっています。

基調講演 作家 浜田久美子 氏

事例発表 (株)西栗倉・森の学校 牧 大介 氏

日時 平成24年 3月18日(日) 11:00~14:00

場所 諸塚木材加工センター 参加費 無 料

講師紹介 (はまだ くみこ)	牧 大介 (まき だいすけ)
作家 NPO共存の森ネットワーク理事 早稲田大学卒業。横浜国立大学大学院中退。 精神科カウンセラーをへて森林をテーマにした著述業に転身。長野に地域の材で家を建て、東京との二住生活実践中。著書『森をつくる人びと』『木の家三昧』『森のゆくえ』『森がくれる心とからだ～癒されるとき生きるとき』『森のカー育む、癒す、地域をつくる』ほか	西栗倉・森の学校代表取締役。京都大学大学院修了。三和総研を経て、2005年アミタ持続可能経済研究所設立に参画、同所長就任。森林・林業、山村に関わる新規事業の企画・プロデュースなどを各地で手掛ける。2009年西栗倉・森の学校の設立とともに同職に着く。著書に「自然産業の世紀」(創森社)